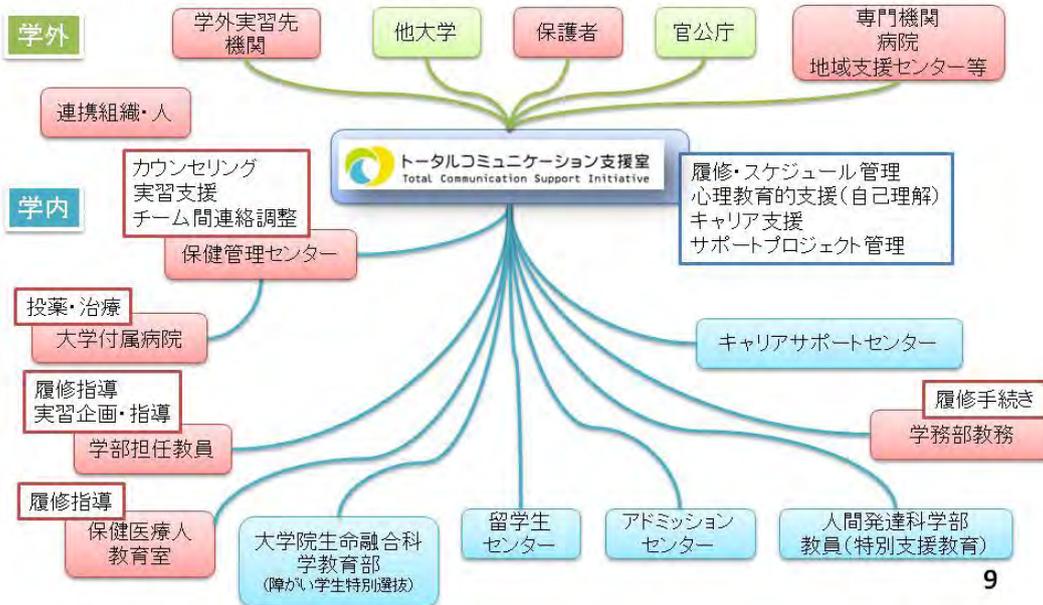


トータルコミュニケーションサポートの特長(1)

学内外組織との連携によるサポートチーム形成

発達障がい学生(理系)Aさん(ADHD診断あり・高機能ASD疑い)のサポートチーム形成例



9

トータルコミュニケーションサポートの特長(2)

SNS(ICT)の活用による「オフ」と「オン」の相乗効果

- 学生サポートの質と量の両方を向上させることができる。
 - ✓ 学生は、日々の活動から浮かび上がってきた思いを日記に書いて(本人が意識的かどうかに関わらず)支援者に伝えることができる。
 - ✓ 学生は、他ユーザーから日記に対する援助的なコメントをもらうことが期待できる。
 - ✓ 支援者は、学生が日頃思ったことが書き込まれた日記によって、面談で話題にすべきことを支援者が事前に把握することができる。
 - ✓ 学生は、面談では話せなかったことを後日伝えることができる。
- 富山大学PSNSのコミュニティ機能を活用して、サポートチーム内での効果的・効率的な情報共有を行える。
 - どこからでもアクセスできて、かつセキュリティが確保された「学生カルテ」の作成が、教職員なら誰でも簡単に作成できる。
 - ✓ サポートチームメンバーの情報共有の負担を軽減する。
 - ✓ 途中からサポートチームに入ったメンバーもすぐに支援の流れを把握することができる。
 - ✓ 「オン(PSNS)」で事実ベースの報告を済ませておくことで、「オフ(対面)」の打ち合わせでは、支援の原点に立ち返った議論に集中することが可能になる。

10

トータルコミュニケーションサポート推進上の課題

□ 学生支援の「場」のマネジメント(対話と実践)の改善

- ✓ 全学的な体制づくりの必要性。直接対応する教職員への啓発と、専門家と非専門家間の関係の在り方
- ✓ 支援目的・プロセスの共有を兼ねた「学生カルテ」をPSNS上のコミュニティで展開し、適切な範囲での情報の共有を図る。
- ✓ 大目標(ポリシー)とそれを達成するための小目標(日々のタスクに直結)の整合性を常に検証する。← ミニケース会と学生カルテの活用

□ 合理的配慮の合意形成(コンセンサス)

- ✓ 本人の努力に見合った成果が出るための環境づくりを目的とした配慮
- ✓ 過剰な配慮の危惧
- ✓ 本人の「支援慣れ」を招き、自助努力を阻害することのないように行う。

□ 自己理解・自己表現力を育成する心理教育的サポートの開発

□ 「入口(高校)」と「出口(地域社会・職場・大学院)」との連携

- ✓ 発達障がいのある生徒の大学進学における高大連携の在り方の調査開始
- ✓ 本人支援と職場支援を両立させるインターンシップ支援の開始

□ 「トータル・コミュニケーション・サポート」の理論化

- ✓ 本人の語り(ナラティブ)に沿いつつ、表現を促進する「問いかけ」方法の検討
- ✓ 当事者だけではなく、支援者のサポート経験や語りの構造化も必要

11

③ 富山県内高等学校における講演スライド

呉羽高等学校PTA 秋の講演会

富山大学における学生支援の最新事情
～キャンパスライフでのより良いコミュニケーションの
場の提供を目指して～

2009年10月10日(土)

富山大学 学生支援センター



トータルコミュニケーション支援室
Total Communication Support Initiative

特命准教授 吉永 崇史



富山大学の紹介

3キャンパス、8学部で構成される総合大学

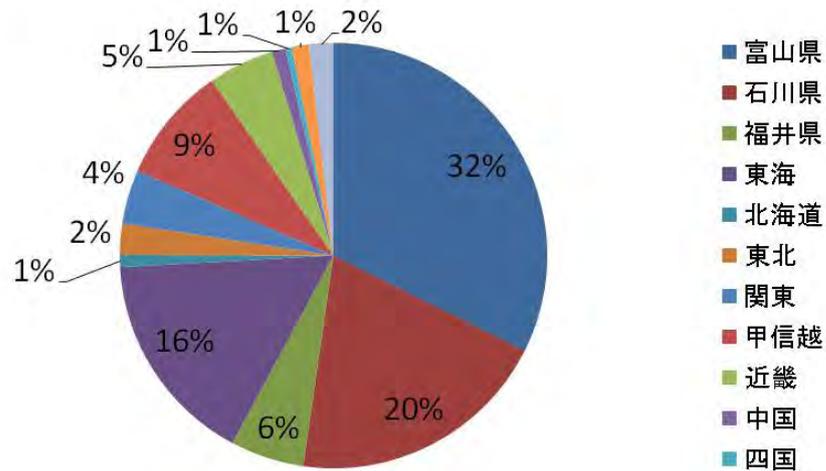
- ✓ 学生: 約9,200人(うち留学生329名)
- ✓ 教職員: 約2,000人





学部学生の地域別入学状況(2009年度)

東海・北陸地区出身者は74.1%



3



富山大学の紹介(五福キャンパス)

5つの学部によって構成されている

- ✓ **人文学部**
人文学科(人間科学、歴史文化、社会文化、国際文化論、東アジア言語文化、英米言語文化、ヨーロッパ言語文化)
- ✓ **人間発達科学部**
発達教育学科、人間環境システム学科
- ✓ **経済学部**
経済学科、経営学科、経営法学科
- ✓ **理学部**
数学科、物理学科、化学科、生物学科
地球科学科、生物圏環境科学科
- ✓ **工学部**
電気電子システム工学科、知能情報工学科、
機械知能システム工学科、生命工学科、
環境応用化学科、材料機能工学科



4



富山大学の紹介(杉谷キャンパス)

2つの学部によって構成

- ✓ **医学部**
医学科
看護学科



- ✓ **薬学部**
薬学科(6年制:薬剤師養成課程)
創薬科学科(4年制)



5



富山大学の紹介(高岡キャンパス)

1つの学部・学科によって構成

- ✓ **芸術文化学部芸術文化学科**
造形芸術コース
デザイン工芸コース
デザイン情報コース
造形建築科学コース
文化マネジメントコース



6

入学～卒業まで変遷する学生の困り感(初期)

□ 入学直後での相談事例

- ✓ 不本意入学してしまった...
- ✓ 履修登録の仕方が分からない。
- ✓ 講義室の場所が分からない。
- ✓ 掲示版に掲載されている情報をうまくキャッチできない。
- ✓ 友人が作れない。作る必要性を感じない。
- ✓ サークル活動やアルバイトといった課外活動の仕方が分からない。
- ✓ 初めての1人暮らしで、夜に寂しくなる。
- ✓ 大教室の雰囲気になじめない。
- ✓ 興味のない宗教の勧誘で断れない。知らない人に電話番号やメールアドレスを教えてしまった。
- ✓ GW直後に大学に来れなくなる。

7

入学～卒業まで変遷する学生の困り感(中期)

□ 履修上の相談事例

- ✓ レポートの書き方が分からない。
- ✓ レポート等の提出期限が守れない。
- ✓ 生活の乱れや体調不良等の理由により、思うように講義に出席できない。
- ✓ ゼミや講義でのグループ・ディスカッションで批判されると気分が落ち込み、気持ちを立て直すのに時間がかかる。
- ✓ 実習や実験の場で周囲との協調性に欠いてしまう。
- ✓ 卒論指導教員との適度の距離を保つことができず、卒論の取組みがままならない。

8

入学～卒業まで変遷する学生の困り感(後期)

□ 就職活動上の相談事例

- ✓ インターンシップ(1～2週間程度の就業体験)をしたいが、どこに希望を出せばよいかわからない。選べない。
- ✓ 就職活動をどのように進めていけばよいか見当がつかない。
- ✓ 自分の長所がないように思え、どのような仕事ができるのか想像がつかない。
→自己PRと志望動機を考えることができない。
- ✓ 就職活動における面接で黙りこんだり、意欲をうまく伝えたりすることができない。
- ✓ 親に勧められて公務員試験勉強の準備に専念していたが、筆記試験には合格したものの、面接試験で不合格となってしまった。就職活動シーズンは終わっており、これからどうしてよいか分からない。

9

「オフ」と「オン」が調和する学生支援システムの構築 平成19年度学生支援GP選定(平成22年度まで)



「オフ」と「オン」の調和による学生支援

- 対面(オフライン)でのサポートに加えて、ネット(オンライン)上でのサポート(富山大学PSNS:Psycho-Social Networking Service)を提供します。
- キャンパスライフでのより良いコミュニケーションの場を提供し、複数のアクセスチャンネルを保証します。
- 発達障害学生の特性を尊重したサポートを行います。



「学生支援GP」コミュニケーションマークの デザインコンセプト

個と個がコミュニケーションを図ることで生まれる連携やネットワークの拡大、大きな成長をイメージしたマークです。
また、一人ひとりに対して「オフ」と「オン」の調和のとれた支援を行うことが全体としてのより良い循環を形成していくという、ミクロとマクロのコスモス(個人の世界と全体の世界)の広がり表現しています。10